

明るい小矢部

No. 218
2023年10・11月号
年4回6500部発行

発行
日本共産党
小矢部市委員会
小矢部市七社 245
砂田喜昭
TEL 67-4322
FAX 67-4842

日本共産党発行
赤旗
日曜 3497円
月曜 930円

9月議会 上田由美子市議の一般質問

庄川上流に産廃施設建設計画 止めさせるために、市が行動を



質問する上田市議

庄川の最上流・岐阜県高山市(庄川町六郎(むまや)地内)に、産業廃棄物の最終処分場建設が計画されています。埋立処分場は26年間で終了する計画だが、未来永劫管理が必要である。事業者が撤退すれば地元や下流の自治体が税金で管理を継続しなければならぬ。ゴム製遮水シートが劣化し浸みだす水も問題になる。地震や豪雨による災害への対策も重要になる。

【企画政策部長】 清流として名高い庄川や豊かな地下水への影響、長期にわたる埋立地の管理など環境への負荷が考えられる。建設計画や他市の動向を見極め、必要に応じて対応を検討していきたい(参考:南砺、砺波、高岡、射水の4市議会は岐阜県知事に慎重な判断を求める意見書を提出)。

【上田市議】 庄川のきれいな水を守るために市として力をつくしてもらいたい。

飲料水、農業用水、上水道用水に影響

【上田市議】 庄川の水は、農業用水や井戸水、市上水道の水源の一つ(水道水全体の



五郎丸 ヒガハケの里

オーガニック・ビレッジ宣言を

【上田市議】 オーガニック・ビレッジは有機農産物の産地作りをすすめるもので、これに取り組めば国の推進交付金がある。生産だけでなく、流通・加工関係、消費関係も組み合わせるもので、学校給食での活用や環境教育、食育との連携が考えられる。

国は2025年までに100市町村のオーガニック・ビレッジ宣言を目指している。富山県では南砺市と富山市で実施し、23年度では全国で83地区となっている。ウクライナ危機により、世界は戦後最大の食料危機に直面し、日本の食料自給率は38%に落ち込んでい。そのうえ肥料は99%輸入に依存している。今こそ持続可能な農業をめざし有機農業に取り組む必要がある。小矢部市がオーガニック・ビレッジ宣言してはどうか。



新学校給食センターに炊飯施設を

【上田市議】 小矢部市産の米を新学校給食センターで炊飯すれば、地産地消を確実に実施できる。市が委託している炊飯業者では、コメの品種が同じであれば、小矢部市以外の産地の米といっしょに炊飯しているとのことだった。100%小矢部産の米を小中学生に

【教育長】 給食センターは安全性が大前提だ。米飯における地産地消も大事であるが、それについては、今後改善していきたい。(市議会総合計画特別委 11月8日)



大軍拡ノーをアピール=10月16日、本町交差点

一般会計 補正予算

子どものインフルエンザ予防接種 高校生も 1回3千円助成

9月議会一般会計補正予算で、インフルエンザ予防接種の助成費、小学生から18歳年度末までの子ども

の予防接種費用1回3000円分、計433万3千円が決



テレビをつけたら、パレスチナ・ガザ地区で女の子が「わたしたちの命...怖い...どこに逃げたらいいかわからない」。父親らしき腕に抱きかかえられながら嗚咽していた▼ハマスはイスラエルへの無差別攻撃と民間人の連行、イスラエル軍のガザ地区への暴力の応酬と同地区への電力、食料、燃料などの遮断など、絶対に許されない▼日本共産党は「暴力の応酬の悪循環を止め、双方は最大限の自制を」と、関係各国に直接呼びかけている。①イスラエルの占領地からの撤退、②パレスチナ独立国家樹立、③両者の生存権の相互承認という三原則は、国連決議に見られるように、国際的な合意でもある▼日本共産党は今年で創立101周年の老舗である。戦前、日本による韓国や中国、アジア諸国への侵略に命がけで反対してきた。戦後もアメリカにも、ソ連、中国にも自主独立で言うべきことを主張し、どんな迫害を受けても節を曲げずに、平和と国民生活擁護でがんばってきた▼時の権力はこんな党が邪魔でつぶそうと襲いかかった。その一つが1949年の列車転覆事件、松川事件▼最近、岩波書店から発行された『昭和天皇拝謁記』に驚く記述が。天皇が、朝鮮戦争休戦のころ「法務大臣にきいたが、松川事件はアメリカがやって共産党のせいにした」と語ったという。この一大冤罪事件は、市民の運動によって最高裁で完全無罪となった▼道理ある主張は世界を動かす。暴力と軍事で平和をつくれな

い。テレビを見て隣の人と語り合ってみよう。小さな声でも一人の声が平和をつくる。ベトナム反戦運動のときがそうだった。